

「バニラの魅力と2つの新作フレグランス」

平野佐和 会員

最近日本で発売された新作フレグランスの中に、特に印象深いネーミングのものが2つありました。いずれもバニラの新たな魅力を表現すると標榜しながら、名前の中に「バニラ」の表記はありません。そもそもバニラとは何だったのか、記憶の中の既存の印象に頼らず、改めて調べてみたくなりました。「バニラ」と名付けられた存在を再確認し、この素材が活かされた2つの新作フレグランスを紹介します。

「バニラ」と名付けられた植物

「バニラ“*Vanilla planifolia*” つる性のラン科植物。種子に含まれるバニリンを抽出してバニラエッセンスを生産する。マダガスカルやインドネシアが生産地。中央アメリカの熱帯多雨林が原産。」今年5月に撮影した植物に添えられていた説明です。場所は東京農業大学「食と農」の博物館内に在るバイオリウム。こちらには、マダガスカルを中心とした貴重な動植物コレクションが公開されていました。



バニラ

東京農業大学「食と農」の
博物館内バイオリウムにて

学名の“*planifolia*”は、ラテン語で「平らな葉」。その通りの外観の葉を観察できました。農場栽培には、まず土壌をきれいにしてバニラを支える植物を植え、花が咲くまで3年間待ち、毎年9～12月の開花期に短時間しか咲かない花への人工授粉が必要。受粉後8～9ヶ月で収穫されたサヤは約4ヶ月のキュアリング(未熟なサヤを加温、乾燥、熟成させる)後、芳醇な香りを発するようになるそうです。

“Vanilla”の語源は「小さな豆のサヤ」を意味するスペイン語が由来とのこと。「バニラ・ビーンズ」と呼ばれる黒いサヤの中身は小粒の種だそうです。果実の外観から「ビーンズ」と呼ばれたのかもしれませんが。この植物の歴史は約7000万年前に遡り、トウモロコシやカカオ、唐辛子で作られた飲み物の風味づけに利用されていたそうです。スペイン人がこれを自国に持ち帰ったのは16世紀のことでした。

実際にヨーロッパ人がバニラの量産に成功したのは19世紀以降。授粉を担う蜂が原産地にしか生息しないことが解明され、レユニオン島で奴隷の少年により人工授粉技術が発見されて以降だそうです。現在、世界最大の生産国マダガスカルだけでなく、アフリカ、中南米、中国、インド、インドネシア等で栽培されているバニラは、サフランに次いで世界で2番目に高価なスパイスとも呼ばれています。



「ATMAH(アトマ)/CARON」 発表会での展示画像

「ATMAH(アトマ)/ CARON」

“自由を信条に、地平線へと突き抜けるミネラル・バニラ” アトマ オードパルファン。…今年3月4日の日本全国発売に向けた発表会資料冒頭の一文です。サンスクリット語 “アートマン” 由来の「ATMAH」は、生命の息吹、肉体の束縛から解き放たれた自由な魂を意味し、このフレグランスは、個人が本質を探求する中で他者の束縛や期待から解放された個性のためのフレグランスであると記されています。

中央アジアに位置するキルギス。その広大な鉱物の無限の広がり、銀色の平原を舞う光からインスピレーションの源を得たアーティスティック・ディレクターのイメージを、調香師が香りに変換しました。「空気と光を呼吸するバニラ」という着想から、従来の甘いイメージを覆し、ミネラルのような力強さと活力の表現を目指したそうです。私も、纏いながら内なる輝きを喚起されるような魅力を感じました。



「ATMAH(アトマ)/CARON」 ボトル

香調は「ミネラル・バニラ」。ウッディアンバーの力強い骨格が深みを与えています。香りを構成する素材として公表されているものは、以下の通りです。バニラ CO₂オーピュール、アンブレットシードアブソリュートオーピュール、ナツブリムチュベローズ、ジャスミンクリーム、ムスク、アンブロフィックス、ピンクペッパーコーン CO₂オーピュール、ロジフォリア、アキガラウッド、サンドベチバーオーピュール。

「FANTASMAGORY(ファンタスマゴリー) /LOUIS VUITTON」

昨年秋、ルイ・ヴィトンのフレグランス スペシャリストの方から、10月16日発売となる新作のご案内が届きました。「FANTASMAGORY 夢と現実 その狭間で感じる幻想の世界を待望のバニラで表現…」との説明に興味を抱き、発売当日にその香りを体感。洗練された甘美なバニラの感触の中に、極めて繊細なスパイシー感とクリーミーさ、クールなレザー感が見え隠れしています。まさに幻想的な印象でした。



「FANTASMAGORY(ファンタスマゴリー)
/ LOUIS VUITTON」 ボトル
ルイ・ヴィトン表参道店にて

ブランドが提示するこの新作の紹介文冒頭には、「バニラがまとう新たな光。幻想の世界からインスピレーションを得て、動きと光の共生から誕生した…」と記され、凝縮させたバニラ、アーモンドエクス、ジンジャーが用いられたと説明されています。「幻想」や「幻影」を意味する“FANTASMAGORY”。香りとは本来、常に動的なものであり、繊細であるほど、その魅力は輝くのかもと改めて感じます。

多面性豊かな香料「バニラ」

“FANTASMAGORY”を調香したパフューマーの言葉(フランス語を和訳)を以下に引用します。「バニラは、ある時はスモーキー、ある時はアニマリック、あるいはグルマンな、百の表情を持つスパイスであり、何よりも温かみがあり、肌にはぴったりだ。」

バニラの香料としての有用性の一つとして、私は「多面性」を挙げたいと思います。さまざまな飲み物や食品に絶妙な風味を与え、フレグランスの香調においても、他の素材と繊細に調和しながらユニークな香りを生み出し得るバニラ。これからもこの貴重な魅力を持つ素材に注目していきたいものです。

参考文献

- 1) ディディエ・ルブレ『神秘的な香料素材 バニラ』
国際香りと文化の会 会報誌 VENUS Vol.13
2001 年
- 2) ローザ・アブレユ＝ランクル (甲斐理恵子訳)
『バニラの歴史』 原書房 2022 年
- 3) ドミニーク・ローク (門脇 仁訳)
『香りの起源を求めて 香水を支える植物 18 の物語』
築地書館 2025 年
- 4) ㈱フォルテ online store 『CARON アトマ』
<https://forte-tyo.co.jp/shopping/product/atmah/>
- 5) ルイ・ヴィトン 『ファンタスマゴリー パルファン』
<https://jp.louisvuitton.com/jpn-jp/products/fantasmagory-nvprod7000003v/LP0429>
- 6) Jacques Cavallier, Belletrud et Lionel Paillès
『Louis Vuitton. Atlas des parfums 』
Thames & Hudson 2024 年

執筆者

平野 佐和 (Sawa HIRANO)

プランナー

文化服装学院講師

<http://www.sawa-hirano.com>